

花

センターだより

緑

2009・1
7号

(財)兵庫県園芸・公園協会 花と緑のまちづくりセンター

意外に知らない「身近な植物英語」から考えるまちづくり

第三回「セミナー、カルチャー、サクセッション」

兵庫県立淡路景観園芸学校

主任景観園芸専門員 平田 富士男

●私たちの生活のなかの花みどり英語

花みどりの英語第三回は、「セミナー、カルチャー、サクセッション」をとりあげてみましょう。

まず、「セミナー(seminar)」という言葉ですが、これは「講座や教室」の意味でよく耳にします。しかしこの言葉は「semen:種」という言葉から来ています。これに「arium:場所」という言葉が付いて、さらに短くなったのが「seminar」です。ですから元々の意味は「種を育てる場所=苗床」ですね。現在「seminar」自身に苗床の意味はもうないようですが、辞書を見ると「seminary=育成場所、温床」、「seminal=種の、繁殖の」という表記はまだ出てきます。たしかに「セミナー」は人を「育てる」場所ですね。

次に「culture」ですが、これも一般的には「文化」と訳されますが、元々は「cultivate=耕す」の名詞形ですから、辞書をよく見ると「栽培、耕作」などの訳が見あたります。

むしろこちらの方が原義に近いでしょう。ですから、園芸の

英訳「horticulture(ホーティカルチャー)」も、農

業の英訳「agriculture



▲まちでよくみかける農協のJAマーク

(アグリカルチャー)」もちゃんとcultureがついていますね。農協の愛称「JA」は「Japan Agricultural Cooperatives」の頭文字から来ています。植物と同じように、seminarで人間の頭を育てれば、そこにcultureが根付く、というわけです。

最後の「サクセッション(succession)」ですが、これは前の二者に比べればお目にかかることは少ないかも知れません。しかし、私などはこの言葉を聞くとすぐ忌野清四郎さんが率いるロックバンド「RCサクセッション」を思い出してしまうのです。皆さんはいかがですか。今

回、彼がバンド名になぜこのサクセッションをつけたのか、を調べてみたところ、新しくこのバンドを立ち上げたときに、前に所属していたRとCがつくバンドの音楽性を「受け継ぐもの」としてこのサクセッションをつけたそうです。バンド名として単なる語呂の良さからだけなのではなく、深い意味があったのです。植物学の世界では、このサクセッションを植生の「遷移(移り変わり)」という意味で用いますが、その植生は極相(英語では「climax(クライマックス)」)に向かって遷移していき、そこで安定するので

●まちづくりに関わる人を発掘し、育て、次に引き継いでいく

さて、このように見ると私たちがふだん何気なく耳にしている「セミナー、カルチャー、サクセッション」は人間がいかにか緑を育てているか、そして緑がいかにして生をつないでいこうとしているかを示しています。つまり、人間はsemenという種を苗床で大事に育て、耕し、栽培し、大きくしていきますが、重要なのは単体の植物の生育だけではなく植物の集合体、つまり植物の社会がずっと受け継がれていく、ということなのです。まちづくり活動も、最初はたったひとりの活動から始まるのですが、重要なのはたとえひとつでもその種をみんなで育成し、まちや地域全体の活動として発展させるとともに、その活動を持続的なものにしていくためのサクセッションの仕組みや仕掛けを常に考えていくことなのでしょう。まちづくり活動も植生のようにサクセッションさせ、そしてクライマックスを迎えるようにもっていくことが重要なのです。

さて、次の最終回は少し植物から離れ「チャリティー、サービス、ボランティア」を考えてみたいと思います。

2008ひょうごまちなみガーデンショー in 明石 花と緑のまちづくりフォーラム報告

2008ひょうごまちなみガーデンショー in 明石が昨年10月4日～13日にかけて明石公園及びその周辺において開催されました。その最終日に行われました花と緑のまちづくりフォーラムには、県下各地域で花と緑のまちづくりに取り組んでいるグループから200名を超える参加がありました。

基調講演

オープンガーデン サン・フラワー宮崎の活動とこれから

○講師プロフィール

新名 れい子 氏

オープンガーデン サン・フラワー宮崎会長。2007年全国花のまちづくりコンクール団体部門で大賞の国土交通大臣賞を受賞。日本花の会宮崎県支部長、宮崎市花のまちづくりコンクール審査員、グリーンアドバイザー、ハンギングバスケットマスター。



○発足の経緯

2001年、宮崎市内の花と緑の愛好家23人で花づくりのネットワークを広げようとオープンガーデン サン・フラワー宮崎を設立。現在、会員は県内全域に広がり、100名を超えている。会報の発行や研修会の開催を通じて情報を共有すると共に、支部を設立して各地域での活動にも力を入れ、今では宮崎市のまちづくり事業に不可欠な団体となった。

○活動内容

2007年からオープンガーデンのガイドブックを作成。また、会員カードを作り、協賛園芸店等で割引が受けられるようにして連携を深めている。

県立病院を花と緑で飾る活動は、今年で6年目になり、ベンチしかない殺風景だった中庭に鉢花を並べ、患者さんや病院職員に憩いの場を提供している。この活動は私立総合病院にも広がっている。

また小学校での寄せ植え教室や、介護施設での園芸療法も始めた。

宮崎市の花のまちづくりの拠点施設フローランテ宮崎では、「庭の見本園」3区画の植栽と維持



病院での植栽

管理を任せられ、それが会員の庭作りの研修の場になっている。市民を対象にした寄せ植え教室等の園芸講座も開催し、人気を博している。



園芸療法

中心市街地では、市営駐輪場をハンギングバスケットで飾り、「まちなかフラワーパーク」と銘打って毎年2回メインストリートで草花の植栽を行っている。春には恒例イベント「フラワーフェスタ」に合わせ、街なかの交差点に創作花壇を制作し、市街地の活性化に貢献している。

独自に実施していたオープンガーデン見学のバスツアーは、実績が認められ、平成17年度から市の委託事業になり、春と秋に「オープンガーデン市民見学会」として開催し、毎回定員の3倍以上の応募がある。県外からの見学者も多く、この活動が観光にも役立っているとのことで、平成16年度に宮崎市が受賞した日本観光協会の「花の観光地づくり大賞」受賞理由の一つにあげられた。企業の協力も広がり、地域に貢献するオープンゲングループにしていきたいと考えている。

2010年4月には「全国花のまちづくり大会」が宮崎で開催されます。東国原知事で話題の宮崎へ足をお運び下さい。



事例発表

- ① 神戸 ひょうご景観園芸産業研究会
長棟 成光 さん
- ② 阪神北 メリーポピンズの会
(ビデオによる参加)
- ③ 東播磨 加古川日岡花くらぶ
浦野 文子 さん
- ④ 北播磨 おのガーデニングボランティア
井上 きくゑ さん
- ⑤ 西播磨 A G N揖保川ブランチ
石原 恵美子 さん
- ⑥ 西播磨 グリーンベル相生
山下 綾子 さん
- ⑦ 淡路 花づくりネットワーク西淡
池尻 八重美 さん



花と緑のまちづくりフォーラムを終えて

ひょうごガーデンマイスター 稲澤 範治 さん

今回のフォーラムは、ひょうごガーデンマイスターの有志が集まって企画、開催した手づくりの第1回フォーラムです。

基調講演の講師には、遠路宮崎県よりオープンガーデン サン・フラワー宮崎会長の新名れい子さんにおいでいただきました。オープンガーデンの開催だけでなく、病院やまちなかでの花と緑の活動など大変素晴らしい活動をされており、参加者一同大いに感銘を受け、今後の花と緑の活動に資するものと思われま

す。事例発表では、花と緑の活動を活発に行っている7つの団体より、発足から今日までの活動経過、活動内容、資金の流れなどについて、熱のこもっ

た報告がされました。リーダーの方々の花緑や地域に対する思いやりと情熱、そしてリーダーを支える周りの人々の理解と愛情によって今日の活動があることが感じられました。

兵庫県には、他県にない花と緑に対する行政の支援が多くあります。具体的には、兵庫県立フラワーセンターや淡路景観園芸学校の設立と運営、ひょうご花緑創造プランや花と緑あふれる美しい県土づくりの企画及び実践、淡路花博の開催、県民みどり税の導入等です。こうした支援の活用が各団体の活動の基本になっていると思われま

す。リーダーの方々にはこの支援を活用し仲間の皆さんとともに楽しみ、より交流を深めたいという思いがあり、それが今回のフォーラムでの力のこもった発表へとつながり、フォーラム参加者全員の輪に広がったと確信しました。

花と緑あふれる美しい県土づくりの今後の課題は、後継者の育成、資金確保、各市町村の理解と支援、民間活力との協力体制の構築にあると思

います。そのための実践の1つとして、平成21年度にはひょうごガーデンマイスターの会を結成することを計画しています。第2、第3回のフォーラムもひょうごガーデンマイスターの手づくりで盛り上げていきたいと思



兵庫県下のガーデニングクラブの紹介

須磨離宮公園バラボランティア

○発足の経緯

神戸市立須磨離宮公園のベルサイユ宮殿を思わせる、噴水を軸とした左右対称の整形形式庭園には、離宮にふさわしい「王侯貴族のバラ園」があり、プリンセスオブウェールズやプリンセス・ミチコなど王室や皇室にゆかりの名のついたバラを中心に180種4,000株のバラが植栽されています。景色の素晴らしい関西有数のバラ園にある大切なバラの育成・管理を目的として、約2年前に園からの呼びかけによりバラ好きなボランティアが集まりました。現在35人が登録しています。

○活動内容

春と秋のバラの花から摘みをメインに、夏季剪定や冬季剪定、つるバラの誘引作業などを、職員の指導を受



フレンチローズコーナーづくり

けながら行っています。バラ以外にも、草花の植え替えやウメの剪定など色々な植物の管理を経験したり、公園のイベントの手伝いをしたりと、多彩な活動を行っています。

2007年は最近流行のフレンチローズを集めたコーナーを作りました。土づくりから苗の選定、オベリスクやバードオブジェの製作など苦労も多かったのですが、良い思い出となりました。アーチがバラで覆われて、公園の新名所になればと夢見えています。

また、「まちなみガーデンショー」にも出展し、2007年は優秀賞、2008年は最優秀賞の明石市長賞に選ばれ、とても光栄に思っています。

今後も楽しみながら、素晴らしいバラ園を守っていききたいと思っています。



2008年 明石市長賞

草茅苑(くさかえん)

代表 小宮 加容子

○発足の経緯

16年ほど前、揖保川町地域の婦人会活動の一環として山野草に魅せられた花好きが集まって、自然に親しみ、野山を散策したのが始まりでした。

○活動内容

散策から始まった活動は、揖保川の河川敷「せせらぎ公園」でのボランティア活動、会員同士の花苗の交換会へと発展していきました。その後、月1回の季節に応じた山野草の寄せ植え講習会の開催、石付け、苔玉、流木など多彩な方法による植物の栽培、指導のため地域の婦人会や老人会への出張教室も行っています。山野草は、



山野草の寄せ植え教室

洋花のような華やかさはありませんが、かわいらしさと力強さがあり、四季折々の風情が楽しめます。そうした魅力を多くの人に伝えています。



2008年 花と緑のまちづくりセンター長賞

そのほか、春と秋の展示会開催、「まちなみガーデンショーin明石」への出展、地元たつの市の「花と緑のフェスティバル」への参加、他のクラブとの交流会、研修会もしています。

私自身、「ひょうごガーデンマイスター」として知事に認定をいただいたので、これからも様々な活動に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

特定非営利活動法人メリーポピンズの会

理事長 大日向 郁夫

○発足の経緯

当会は宝塚市内の小学校、中学校、保育所や、デイサービスセンター、特別養護老人ホームなどの施設に花壇を造成・管理する園芸ボランティアグループとして1996年に発足しました。

○活動内容

ボランティアを養成するため「タンポポ塾」を運営しています。タンポポ塾は草花講座とバラ講座で発足しましたが、2005年に樹木医の先生に指導をお願いして、樹木講座を新設しました。今後



樹木医に指導を受けるー宝塚第一中学校にてー

樹木の活動は草花の活動と共に当会の2つの柱に成長すると信じています。

樹木講座では「わたしも植木屋さんになろう」の合い言葉で、将来地域コミュニティの樹木管理の中核になりたいと思う仲間が勉強に励んでいます。私たちが樹木を管理している施設は、宝塚第一中学校、逆瀬台デイサービスセンター、特養宝塚ちどり、山手台中学校、マリア幼稚園（西宮市）に広がり、近く宝塚福祉コミュニティプラザ「くプラザコム」の構内に果樹や花木中心の庭を造成する計画が進んでいます。



樹木講座生が造成した初めての和庭園ー特養宝塚ちどりの庭ー

丹波の森花くらぶ

代表 井口 成子

○発足の経緯

フラワーセンター主催『丹波花と緑の教室』で2年間学んだ仲間が中心になって、丹波地域（篠山市、丹波市）をエリアとして、平成12年4月に丹波の森花くらぶを結成しました。

○活動内容

丹波地域では結成当時、丹波の森構想が進められていました。～わが家の庭から丹波の森づくりへ～をテーマに、自分たちの庭づくりが地域の景観づくりの一助となればと、実践につながる研修会を毎月開催しています。

研修会は、庭作りの実習や庭の見学会、挿し木実習など、会員の希望を取り入れて年間計画を立



グリーンリースづくり

て、当番制で進めています。

活動は、個人の庭から、空地、休耕田、集落花壇、そして里山へと、丹波らしさにこだわった景観作りに広がってきました。

また、兵庫丹波の森協会の協力を得てスタートした、たんばオープンガーデンも昨年で6回目を数え、会員のみならず一般の方の参加を得て、丹波の春を愛でる行事に定着しています。しかしエリアが広いことや個人の庭主が増えない等の課題はありますが、過疎化が進む丹波地域を、花や緑を通して人々が交流することで住んでいる人が刺激を受け、地域を見つめ直すきっかけに繋がることを願っています。



信州花の旅

コチョウランの二番花の咲かせ方

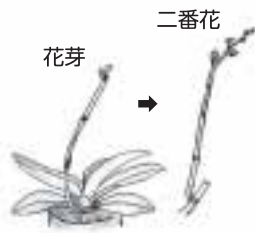
Q コチョウランの二番花を咲かせたいのですが、どのようにすればよいでしょう。

A コチョウランは、一度咲き終わった花茎から、新たな花茎を伸ばして花を咲かせる性質を持っています。

生育温度はランの中でも比較的高く、冬に室内で最低温度15℃以上で管理します。3～4月に開花した株は、充実していれば、二番花を楽しむことができます。一番花が咲ききる前に、花茎の元から数えて3番目の節の1.5cm上で切ります。切った花は、切り花として楽しめます。

残した節から新しい花芽が出て、2～3ヵ月後の初夏には、花の数は3～5輪と少ないですが、咲きます。

なお葉が4枚以下の株、はじめて咲いた株、植え替え予定の株などは、二番花を咲かせると株が消耗するので、一番花が咲き終わったときに、花茎を根元から切ります。



花茎の切り戻し

ゼラニウムの剪定

Q ゼラニウムの茎が長く伸びて下葉が無くなり、上にしか葉がありません。姿を整えたいのですが、どのようにすればよいでしょう。

A ゼラニウムは、丈夫で育てやすく、暑さや寒さにも比較的強く旺盛に生育します。茎が伸びながらその先に花をつける四季咲き性の多年草です。伸びると同時に新陳代謝で下葉から枯れ落ちて1年たつと上部だけに葉が茂り、草姿が悪くなります。

前年秋に剪定を行わず伸びすぎた株は、3月に入ったら剪定します。伸びすぎた枝の下部から新芽が出ている場合は、思いきって切り詰めます。そして伸びてくる新芽を育てます。新芽が出てない場合は、枝に必ず葉を2～3枚残して切り詰めます。やがて残した株から新芽が出てきます。

切り取った枝を、挿し木して新しい株をつくることもできます。



切り戻し

●● 季節の園芸相談 ●●

相談員 福本 誠

庭木の寒肥の施し方

Q 庭木の元気がないので、冬に肥料をやりたいと思います。肥料の施し方を教えてください。

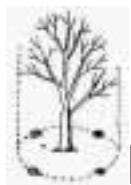
A 庭木が休眠している冬に施す肥料を寒肥と言います。春の芽吹きから枝葉の伸びる時期までの養分を補うために施します。油かすや骨粉などの未発酵の有機質肥料を使う場合は、気温が低い時期は、肥料の発酵分解がゆっくり進むため、根に及ぼす負担が少なく、暖かくなって根の活動が始まる頃に肥料養分が吸収しやすくなっています。

【環状施肥】： 幹の直径の5～6倍離れた所（枝の張っている範囲）に深さ15～20cm、幅20～30cmで円形に溝を掘り、肥料を施して土を埋めもどします。



環状施肥

【つぼ状施肥】： 樹木の間隔がばらついている場合、円周上に4～5ヵ所、直径、深さともに20cm程度の穴を掘り、肥料を施します。



つぼ状施肥

根の浅い低木は、株元にまいて軽く耕します。

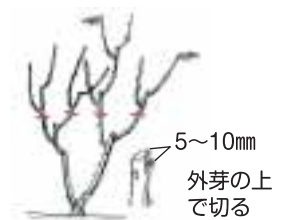
バラの冬季剪定

Q バラの樹高が高くなったので、樹形を整えて、春にはよい花を咲かせたいと思います。冬の剪定方法を教えてください。

A 冬のバラは休眠中ですが、2月中・下旬からは、暖かいところでは根が伸びはじめ、芽がふくらんで見極めやすくなる2月は、冬季剪定の最適期です。

剪定の目的は、枝を新しくすることで木を若返らせる。高さや枝の数を制限し樹形を整えてよい花を咲かせる。込み合った枝を間引くことで風通しをよくし病気を防ぐこと、などです。

剪定方法は、枯れ枝や老化した枝を根もとから切ります。直径5mm以下の細い枝も切ります。また、株の内側に向かって伸びた「ふところ枝」も切ります。剪定位置は、ハイブリッド・ティー系は、全体の1/2から2/3を残し、フロリバンダは少し浅く切って花数を増やすようにします。外向きの芽の5～10mm上で斜めに切ります。



ハイブリッド・ティーの剪定

花ごよみ

	花名	1月	2月	3月	
フラワーセンター	ハボタン	●	●		
	ビオラ	●		●	
	パンジー	●		●	
	クリサンセマム	●		●	
	ツバキ		●	●	
	ウメ		●	●	
	チューリップ(温室)			●	
西猪名公園	ウメ		●	●	
	スイセン	●	●		
	シシガシラ			●	
一庫公園	アセビ		●	●	
	ダンコウバイ			●	
	ヒサカキ			●	
	ウグイスカグラ			●	
	クロモジ			●	
	サンシュユ			●	
	スミレ類			●	
	播磨中央公園	サザンカ	●	●	
		ソシンロウバイ	●	●	
ウメ			●	●	
マンサク			●	●	
ミツマタ				●	
カンヒザクラ				●	
ハクモクレン				●	
スイセン				●	
甲山森林公園		サザンカ	●	●	
	カンツバキ	●	●		
	ヤブツバキ		●	●	
	ヒイラギナンテン		●	●	
	サンシュユ			●	
	アセビ			●	
	ハナノキ			●	
	オトメツバキ			●	
北播磨余暇村公園	ツバキ		●	●	
	シダレウメ			●	
	ユキヤナギ			●	
西武庫公園	サザンカ	●	●		
	ツバキ	●		●	
	ウメ		●	●	
	アーモンド			●	
	モモ			●	
赤穂海浜公園	ツバキ	●		●	
	ハクモクレン			●	
	ギンヨウアカシア			●	
	スイセン		●	●	
明石公園	ヤブツバキ		●	●	
	ロウバイ	●	●		
	ウメ		●	●	

花と緑の行事ほか

県立都市公園、フラワーセンターでは、1月～3月にかけて、次の催しを計画しています。参加ご希望の方は、直接各公園にお申し込み下さい。

1月		
フラワーセンター	アーリースプリングガーデン	1/2～2/24
	2008秋の写真コンテスト入賞作品展	1/10～2/3
有馬富士公園	プリムラ類を使った寄せ植え	1/16
赤穂海浜公園	プリムラ類を使った寄せ植え	1/14
2月		
フラワーセンター	冬のバラ剪定実習	2/8
	春の洋ラン特売会	2/26～3/1
	2009兵庫ラン展	2/26～3/1
播磨中央公園	冬のバラ剪定講習会	2/1
北播磨余暇村公園	冬のバラ剪定講習会	2/8
有馬富士公園	イワタバコ科の苔玉づくり	2/20
赤穂海浜公園	イワタバコ科の苔玉づくり	2/11
3月		
フラワーセンター	春蘭展	3/15・16
	春の種子・球根特売会	3/7～3/22
	春の玄関を飾る寄せ植え教室	3/15
有馬富士公園	春の玄関を飾る寄せ植え	3/20
赤穂海浜公園	春の玄関を飾る寄せ植え	3/11

(※日程・内容については変更することがあります。)



～ 編集後記 ～

新しい年は原点を見つめ直すよい機会です。ゆったりとした気分の中で、昨日までの常識を裏から考え直してみる柔軟性を持ち続けたいです。

花緑活動の中でも、普段の地道な実践の中の小さな「？」から、新しい視点での第一歩が踏み出せたらすばらしいですね。

当センターが、情報の発信源になったり、皆さんのネットワークづくりのお手伝いができれば、と願っています。

花と緑のまちづくりセンターだより 7号

- 平成21年1月1日(年4回発行)
- 編集発行 財団法人兵庫県園芸・公園協会
花と緑のまちづくりセンター長
石原 憲一郎

〒673-0847 明石市明石公園1-27
花と緑のまちづくりセンター
TEL : 078 (918) 2405
FAX : 078 (919) 5186
Eメール : info_midori@hyogopark.com

平成21年 1～3月 園芸教室のご案内

●お申し込み先●

花と緑のまちづくりセンター(9:00～17:00)
TEL.078-918-2405

●一般講座

1講座だけでも受けられます。事前申し込みが必要。受講料は1回100円
時間：記載のないものは13:30～15:30 日程・内容等は変更になることがあります。

No.	日程	課題名・内容	講師名	申込開始日
41	1/18 日	プリムラ類を使った寄せ植え ・冬を彩る草花の寄せ植えを楽しく学ぶ実習 午前10:00～・午後1:30～	フラワーセンター 永田 鈴子	1/4
42	1/22 木	家庭果樹のつくりかた 一鉢植え栽培のコツと接ぎ木 ・鉢栽培と接ぎ木の仕方について学ぶ	園芸研究家 荒木 斉	1/15
43	1/24 土	色鉛筆で描くボタニカルアート冬 ・草花の生態をじっくり観察し、色鉛筆での彩色画の基本を学ぶ	植物画家 山田 紀子	1/15
44	2/1 日	明石公園の自然観察⑪(雨天決行) ・明石公園内を散策しながら自然に親しむ 午前10:00～	明石公園の自然に親しむ会 兼光 たか子	1/15
45	2/6 金	バラの剪定と接ぎ木 ・春に美しく咲かせるための剪定法について実習を交えながら解説	フラワーセンター 高田 正	1/15
46	2/15 日	イワタバコ科の苔玉作り ・可憐なイワタバコ科の植物を使った苔玉づくりを楽しく学ぶ 午前10:00～・午後1:30～	フラワーセンター 岡田 ちづよ	2/1
47	2/22 日	しいたけを栽培しよう ・しいたけ栽培について実習を交えながら解説	原木しいたけ生産者 仲 秀雄	2/15
48	3/1 日	明石公園の自然観察⑫(雨天決行) ・明石公園内を散策しながら自然に親しむ 午前10:00～	明石公園の自然に親しむ会 兼光 たか子	2/15
49	3/6 金	庭園の鑑賞 ・庭園の鑑賞法を具体的な庭を通じて解説	県立農業高校 船岡 重義	2/15
50	3/15 日	春の玄関を飾る寄せ植え ・早春を彩る草花の寄せ植え実習 午前10:00～・午後1:30～	フラワーセンター 永田 鈴子	3/1

●連続講座 環境(全3回)

※連続講座のため、途中参加の場合も全回分受講料が必要
受講料：一括 600円 時間：13:30～15:30

No.	日程	課題名・内容	講師名	申込開始日
3	2/7 土	環境③森と文明 ・「明日の地球に森は応える」	元花緑センター 村田 光平	受付中

●連続講座 文化(全4回)

※連続講座のため、途中参加の場合も全回分受講料が必要
受講料：一括 800円 時間：13:30～15:30

No.	日程	課題名・内容	講師名	申込開始日
1	1/17 土	花の文化② ・有機園芸と食文化 ・暮らしに役立つ伝承のイメージ・シンボルとしての花と緑	花緑センター 藤岡 作太郎	受付中
2	2/14 土	花の文化③ ・絵画や詩の中の花からみた西洋と日本の違い ・詩(俳句)の中の花からみた西洋と日本の情操の違い	花緑センター 藤岡 作太郎	受付中
3	3/14 土	花の文化④ ・兵庫の花の文化の里 ・世界に人気の日本の植物を生かす造形文化	花緑センター 藤岡 作太郎	受付中